

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
RDM7-016-83-2	2024通年	医学教育部(20170)	1, 2, 3, 4	2	他
科目名(講義題目)			担当教員		
がん治療学理論【Cancer therapeutics】(C 8 がん治療学理論)			鈴木 実, 武笠 晃丈, 坂上 拓郎, 大屋 夏生, 神波 大己, 折田 頼尚, 宮本 裕士, 中山 秀樹, 野坂 生郷, 山本 豊, 福島 聡, 本原 剛志, 日比 泰造, 宮本 健史, 田中 靖人		
学修成果とその割合					
1.高度な専門的知識・技能及び研究力・・・60% 2.学際的領域を理解できる深奥な教養力・・・35% 3.グローバルな視野と行動力・・・5%					
授業の形態	講義				
授業の方法	e-learningあるいは対面講義により講義を進める。				
授業の目的	がん治療学理論における講義では、外科治療、放射線治療、化学療法や免疫療法などのがんに対する治療法の基礎的理解を深め、また治療法の歴史的変遷、最近の標準治療、今後の方向性についても理解し習得できるように指導する。さらに、各論として、以下の領域における、がん治療の最先端に関する理解を深めることを目標とする。(1)消化器腫瘍(2)呼吸器腫瘍(3)脳神経系腫瘍(4)頭頸部腫瘍(5)顎口腔腫瘍(6)乳腺内分泌腫瘍(7)泌尿器系腫瘍(8)婦人科腫瘍(9)骨軟部腫瘍(10)皮膚腫瘍(11)造血器腫瘍(12)小児腫瘍等につき最新の治療法に関する知識の習得を目標とする。				
学修目標	【A水準】 外科治療、放射線治療、化学療法や免疫療法などのがんに対する治療法の基礎的理解を習得し、最新の治療法等を交えて他人に説明することができる。 【C水準】 外科治療、放射線治療、化学療法や免疫療法などのがんに対する治療法をおおむね理解し、他人に伝えることができる。				
授業の概要	本講義では、がん治療の総論としての、外科治療、化学療法、放射線療法、免疫療法などに加え、それぞれの臓器ごとの最新の治療法、標準治療に関する理解を深める。がんの治療に関しては近年、それぞれの臓器ごとにガイドラインが策定され、均填化が図られている。がん治療の標準化のために、さまざまな臨床試験が推進され、得られた結果に基づき、エビデンスレベルの高いものが標準治療として、確立されるが、これまでの臨床試験の結果から、どのように標準治療が確立されているかを学ぶ。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		田中 靖人 【eJ-0】	消化器がんの内科的治療		
2		宮本 裕士 【eJ-0】	消化器がんの外科治療		
3		坂上 拓郎 【eJ-0】	肺がんの内科的治療__		
4		鈴木 実 【eJ-0】	肺がんの外科的治療__		
5		中山 秀樹 【eJ-0】	口腔癌の治療 口腔癌に対する外科治療、放射線治療、化学療法、および免疫療法などの効果と治療の位置付けについて講義する。		
6		折田 頼尚 【eJ-0】	頭頸部腫瘍の治療____		
7		宮本 健史 【eJ-0】	骨軟部腫瘍の治療____		
8		山本 豊 【eJ-0】	乳がんの治療_____		
9		本原 剛志 【eJ-0】	婦人科悪性腫瘍の治療		
10		神波 大己 【eJ-0】	泌尿器系腫瘍の治療____		
11		福島 聡 【eJ-0】	皮膚がんの治療_____		
12		日比 泰造 【eJ-0】	小児固形癌の治療____		
13		武笠 晃丈 【eJ-0】	脳腫瘍の治療_____		
14		野坂 生郷 【eJ-0】	造血器腫瘍の治療____		
15		大屋 夏生 【eJ-0】	がんの放射線治療____		
授業外学修時間の目安	本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。				
テキスト	特に指定せず、講義のポイントをもとめたプリントを配布する。				
参考文献	・新臨床腫瘍学、日本臨床腫瘍学会編 ・Cancer principles & practice of oncology,V.T. DeVita, S.Hellman, S.A.Rosenberg,Lippincott Willams &Wilkins ・Clinical Oncology, M.D.Abeloff, J.O. Armitage, J.E.Niederhuber,M.B.Kastan,W.G.McKenna, Elsevier ・Cancer Medicine, Holland-Frei, AACR ・The biology of Cancer, R.A.Weinberg, Garland Science ・NCCN ガイドライン				
履修条件	本講義に関連する基礎的な知識を有すること				
評価方法・基準	講義中の質疑応答や、講義終了時に提示されるテーマに関するレポート等により、【授業の目的】に掲げた事項についての理解度を評価する。15回の講義における小テストあるいはレポートで評価し、上位10回分の点数の平均を成績とする。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト				
実務経験を活かした授業	該当(がん治療として、外科治療、化学療法、放射線療法、免疫療法などに加え、それぞれの臓器ごとの最新の治療、標準治療について経験のある教員が、その経験を活かして、各専門科目について講義する。)				